

1993年7月4日

発行

ISSN 0917-5695

# 寄七蛾記

68号



YOSEGAKI

埼玉昆虫談話会

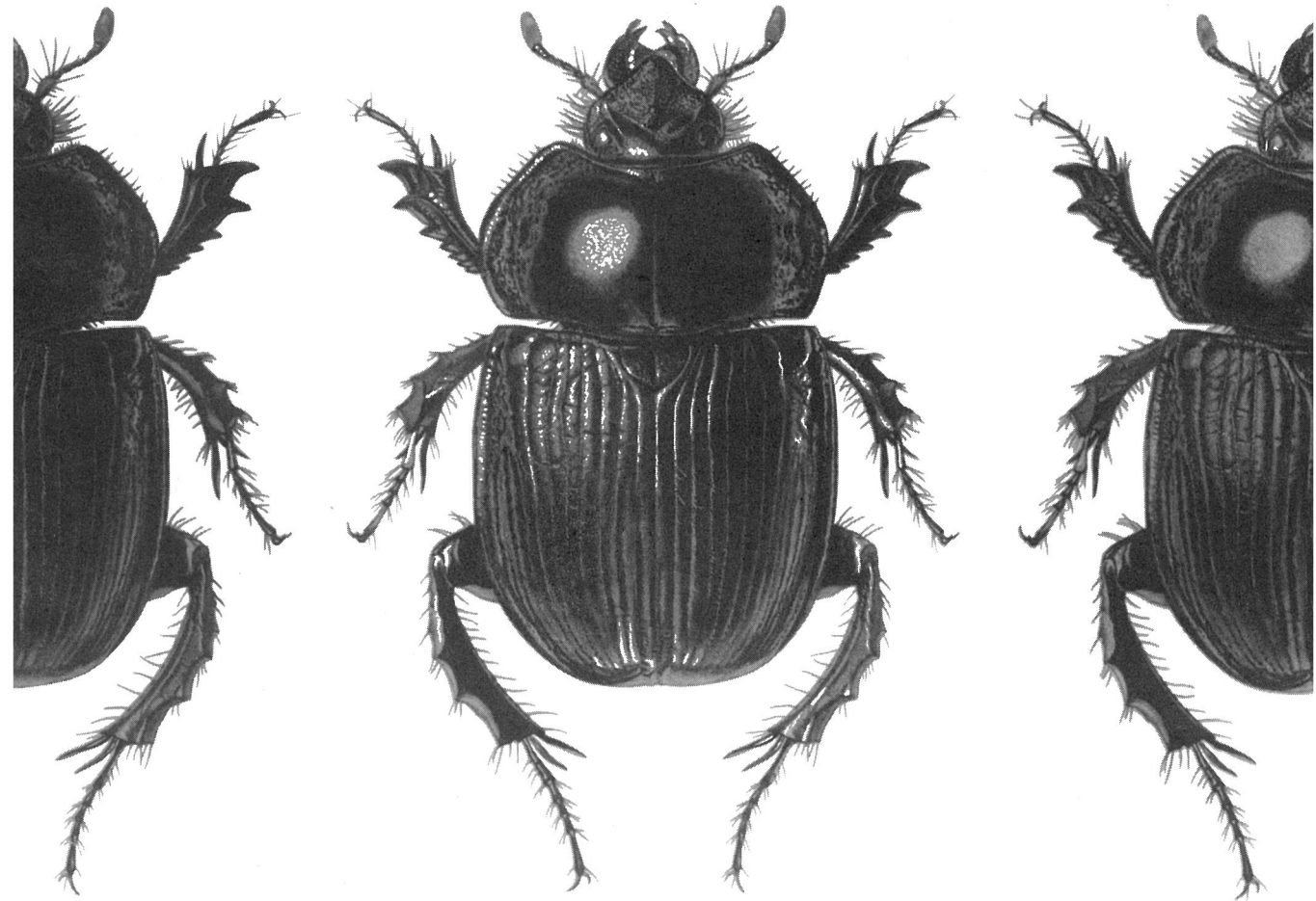


表 紙

原 画：小 田 博

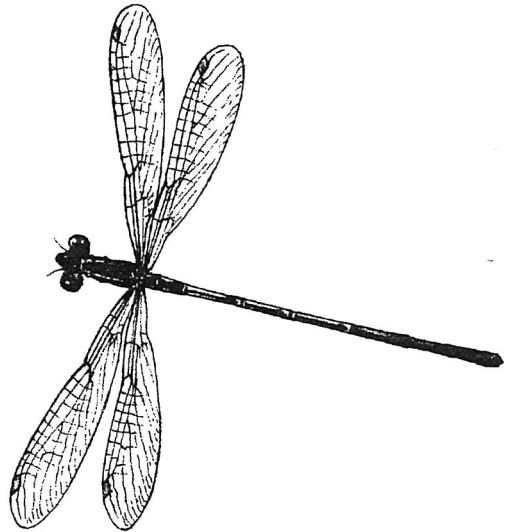
デザイン：小 堀 文 彦

## 北本にトンボ公園が誕生

北本市最大の谷津であった石戸宿は、自然学習公園になってから年を追って乾燥化している。野焼きや草刈りがなされないこともあって、強靱なヨシ群落の専横が激しく、干上がった場所ではクズやカナムグラがはびこり、雑木林のなかではアズマネザサが背丈を伸ばしている。その結果、各種貴重な動植物が消滅しつつあり、一部有識者が憂慮していた。

その北本に新しい池沼と湿地ができあがりつつある。三宮幸雄会員の肝入りで、「北本トンボ公園をつくる会」が結成された。今のところ21名と少人数だが、毎週土、日をかけて少しずつ、少しずつ穴を掘りヨシを払って、池やクリークを拓けている。市の北東に位置する北袋の谷津。会員みんなの夢はこの谷津にアオヤンマやサラサヤンマなど、多種類のトンボを呼び寄せること。

会の代表は炭谷八重子さん。北本市市史編さん室に長くいて、「北本の動植物誌」の裏方をつとめた方。ボランティアが可能な方は力を貸してあげて欲しい。



(牧林 功)

北本トンボ公園をつくる会（代表・炭谷八重子）：〒364 北本市下石戸上1920-83, TEL 0485-92-1636。

## 本に登場した会員 その一 松井安俊・松井英子氏

### 男性的なチョウたち

チョウといえば女性的なものの代名詞のようにいわれるけれど、なかには戦国武士さながらの精悍な体つきをしたものもいる。タテハチョウのファミリーは、そういった男性的なチョウの一群である。

タテハの王様は、オオムラサキ。ご存知、日本の国蝶である。クヌギの巨木が立ち並ぶ夏の雑木林を、バタバタと羽音をたてながら飛ぶ雄姿は見る者を魅了する。がっしりとした体つきといい、高貴な紫の幻光を放つ翅といい、まさにチョウの王様と呼ぶにふさわしい。

オオムラサキは真夏のタテハの代表選手であるが、秋が似合うタテハチョウも多い。成虫で冬を越す狭義のタテハチョウのグループがそれだ。ヒオドシチョウ族一わが国には十種ほどが分布しているが、どのチョウもみながっしりとした胴体に、ギザギザした翅をつけている。飛び方も敏速で力強く、最もタテハらしいタテハである。

ヨーロッパから日本へかけての旧北区に分布しているものが多く、地味な色だが、よく見るとなかなか渋い。

さきに「成虫で冬を越す」と書いたが、唯一の例外がある。ヒメアカタテハがそれだ。このチョウは「汎世界種」と呼ばれる数少ないものの一つで、ほとんど全世界に分布している。しかも、どこに行ってもたいてい同じ模様をしていて、地理的変異がほとんどない。

他のヒオドシチョウ族が成虫で冬を越すため、ヒメアカタ



テハも成虫で越冬するにちがいないと、長い間信じられてきた。だから、少し古い日本のチョウの図鑑は「成虫で越冬する」とまことしやかに書いている。実際、青森県のような北国でも早春に成虫が見つかるのだから、こう考えるのも無理からぬところである。

このチョウが実は幼虫で冬を越すことをはじめて公にしたのは、千葉県のアマチュア蝶類研究者松井夫妻である。それによれば、ヒメアカタテハの幼虫はヨモギの若葉などをより合わせて巣を作り、厳寒期にはこの冬ごもり用の暖かい巣の中で、葉を食べながら成長するという。

もうそろそろ春になるというころに蛹になるので、早春にも成虫が見られるわけだ。

だが、青森県でも幼虫で冬を越せるのかということになるといささか問題が残る。いかに冬用の巣を作ろうとも、長い間雪に埋もれて幼虫が生き続けられるとは考えにくいからだ。ヒメアカタテハはヨーロッパなどでは大移動をするチョウとして知られている。だから、日本でも春、北へ向かって移動するのではないかと考えられるようになってきた。

松井さんたちはこれを確かめるため、ヒメアカタテハの翅にマークをつけて放している。近い将来、日本でもこのチョウの移動が確認されることだろう。

朝日フォトアルバム 小動物の四季4秋～冬 朝日新聞社 p26 1984

(この企画は鈴木幸氏の提案と本の提供でできました。情報や本等お持ちの方は連絡下さい。)

## 科学朝日に掲載された昆虫関係の記事（その二）

利根川雅実

- 「現代のウォーレスとなれるか」：松香宏隆，55（13），120（1995）
- 伸びる長大な産卵管・ホオヒゲハリバエのウルトラE：湊 和雄，55（12），4（1995）
- ヘアむきだしの求愛儀式・アンフリサスキシタアゲハ：松香宏隆，55（12），6（1995）
- 特集・「進化」の迷宮 「完全変態」はどうやって“イモムシ”を発明したか：奥井一満，55（12），24（1995）
- 特集・「進化」の迷宮 昆虫はなぜ「海」にいない？：奥井一満，55（12），27（1995）
- 秋冷の中のはかない生 ウスタピガ：新開 孝，55（11），128（1995）
- [石弘之のしつこくやろう地球環境]殺人ミツバチも，汚染だ：石 弘之，55（9），52（1995）
- [東京地上げランドの生き物たち]オニヤンマ：藤本和典，55（9），72（1995）
- 遺伝子情報の読み飛ばしが決めていたショウジョウバエの性：井上邦夫，55（7），36（1995）
- [SEXをめぐる24の謎]11・「働きバチ神話」の崩壊・女王の目を盗み，卵を産む：佐々木敏裕，55（7），80（1995）
- 光を放つ「イモムシ」新種イリオモテボタルを撮る：湊 和雄，55（6），8（1995）
- 歩く宝石・地史の生き証人 始まったオサムシの分子系統樹づくり 生命誌研究館グループの挑戦：柏原精一，55（6），119（1995）
- クモの卵のうの乗っ取り屋 珍虫カマキリモドキの不思議な一生：新開 孝，55（5），4（1995）
- 特集・かたち・形・KATACHI 哺乳類の毛皮とチョウの紋がもつ同一性：常盤 徹，55（5），23（1995）
- [YAKUSHIMA・混沌の中で]ツマベニチョウ・豪快な舞いととも一気に夏が来た：青山潤三，55（5），64（1995）
- [SEXをめぐる24の謎]7・モンシロチョウのオスは“恋人”をどんな方法で探す？：佐々木敏裕，55（5），80（1995）
- カクレミノの忍者 タテジマカミキリの冬越し：松香宏隆，55（2），14（1995）
- [東京地上げランドの生き物たち]ルリタテハ：藤本和典，55（2），134（1995）

.....

## いるま蛾報 (8)

井上 寛

.....

当地で1989年までに採れた蛾の大部分は「加治丘陵（埼玉県入間市）の蛾類」（加治丘陵自然環境調査報告書，1990）<sup>1)</sup>で，市川和夫氏と共著で625種をリストした。その後も引き続き毎晩のように，自宅のベランダへ飛来する蛾を採集しているので，20年余りの観察ではじめて採れるような，非常に少ない種類も，時々見つかっている。

### 冬から春へ

私たちが「冬物」と呼んでいる蛾はすべて年1化である。秋に羽化してそのまま越冬し，早春に活動し産卵するヤガ科のキリガ類やハマキガ科の *Acleris* の一部と，東京付近の平野部で，12月頃から3月いっぱい位（年によって変動はあるが）のあいだに出現するフユシャク，フユナミシャク，フユエダシャク，フユハマキ（成虫越冬の種もあるらしい。川辺，1982，日本産蛾類大図鑑1：78）などが挙げられる。

当地の，フユシャク類については，本誌51：850-851，1988 及び 60：1121-1123，1991 に14種リストしたので，これを参照されたい。

*Conistra ardescens* (BUTLER) カシワオビキリガ，*C. albipuncta* (LEECH)<sup>2)</sup> ホシオビキリガ *Orbona fragariae pallidior* WARREN イチゴキリガ（家のすぐ前のコナラの林での糖蜜採集でよく採れるが，灯りに来たことがない），*Inurois tenuis* BUTLER ホソウスバフユシャク，*Phigalia sinuosaria* LEECH シモフリトゲエダシャク，*Ph. verecundaria* (LEECH) シロトゲエダシャク，*Agriopsis dira* (BUTLER) シロフフユエダシャク，*Kawabea rozowskii* (KAWABE) ハイイロフユハマキなどが終わる3月上旬から中旬になると，いよいよ早春の蛾の出番である。

ヤガ科では，*Panolis japonica* DRAUDT マツキリガ，*Cerastis pallens* (BUTLER) カギモンヤガ，*Orthosia evanida* (BUTLER) カバキリガ，*O. nigromaculata* (HÖNE) カギモンキリガ（ひじょうに少ない），*O. lizetta* BUTLER クロミキリガ，*O. angustipennis* (MATSUMURA)，*O. odiosa* (BUTLER) チャイロキリガ，*O. carnipennis* (BUTLER) アカバキリガ，*Clavipalpus aurariae* (OBERTHUR) キンイロキリガ，*Xylopolia bella* (BUTLER) クロスジキリガなどが次々とあらわれ，シャクガ科では，*Biston robustus* (BUTLER) トビモンオ

<sup>1)</sup> この別刷は，市川氏または私に郵送料を添えて請求すれば，無料で差し上げる。

<sup>2)</sup> 蛾類大図鑑と学名が異なる場合は，その後の研究によって変更されたからである。

オエダシヤク (雌はあまり飛来せず, 数年に1~2頭採れる程度), *Descoreba simplex* BUTLER  
 ハスオビエダシヤク, *Planociampa modesta* (BUTLER) ホソバトガリエダシヤク, *P.*  
*antipala* PROUT ヒロバトガリエダシヤク (この種は, 1993年4月20日に1♀が採れた。当地での唯  
 一の採集品), *Cryptochorina amphidasyaria* (OBERTHUR) ヒゲマダラエダシヤク,  
*Protaleis concinnata* (WILEMAN) トギレエダシヤク, *Cleora leucophaea* (BUTLER) シ  
 ロテンエダシヤク, *Pseuderannis lomozeria* (PROUT) ウスバキエダシヤク, すべての種が春  
 物の *Trichopteryx* とその近縁種 (本誌 52 : 902-903, 1988), 一部が春物の *Eupithecia*  
 (本誌 56 : 1015-1016, 1990), *Idiotephria amelia* (BUTLER) モンキナミシヤク, *I.*  
*evanescens* (STAUDINGER) ナカモンキナミシヤク, トガリバガ科では, *Neoploca*  
*arctipennis* (BUTLER) マユミトガリバ (前翅斑紋に変異多く, 黒化型がしばしば採れる), シヤ  
 チホコガ科では, *Drymonia basalis* WILEMAN & SOUTH ノヒラトビモンシヤチホコなどがやっ  
 てくる。年によっては, *Aglia japonica microtau* INOUE エゾヨツメが飛来することもある。  
 春物は, 4月下旬で発生が終わる。

4月も半ばになると, 年2化あるいは多化性の蛾の中で, 第1回目の成虫の発生がはじまるものが多  
 く, 春物にまざって飛来するので, わが家のベランダは, たいへんにぎやかとなる。

#### 珍しいクロバネフトメイガ

*Stericta angusta* (INOUE) クロバネフトメイガが, *Jocara* 属のもとで私が記載し, 基産地  
 は静岡県伊豆半島の大滝 (オオダル) 温泉だが, 副模式標本として, 当地産の2♀を記録した (1988,  
*Tinea* 12 : 85-86)。滅多に採れないのだが, 1992年8月6日と26日に, それぞれ1♂を採集したので  
 ここに記録しておく。7月中旬から8月上旬に出現するようである。

本種の所属については, Solis, 1992, *J. Lepid. Soc.* 46:290 に従って, *Stericta* とした。

#### アキバエダシヤクの発見

*Hypomecis akiba* INOUE アキバエダシヤクは, 東北地方北部から屋久島まで, 日本に広く分布  
 しているが, 関東周辺では山地でしか採れていなかった。1992年7月2日に1♂が飛来したので, こん  
 な平野部にも生息しているのか, と驚いた。幼虫はコナラ属を中心に多食性のようなので, 私宅のすぐ  
 前の林で, 少ないながら発生しているのかもしれない。井上, 1982, 日本産蛾類大図鑑 1 ; 543 ; 2 ;  
 pl. 92 : 13-15 及び, 佐藤, 1987, 日本産蛾類生態図鑑 : 88, pl. 35 : 3を参照。



.....

## 北本市石戸宿で採集した甲虫類 (1)

記野直人・長谷川洋  
.....

筆者らは、北本市石戸宿で数回にわたり甲虫類を採集しているので報告する。採集記録は、採集日、採集個体、採集者の順に並んでおり、採集者に関しては、記野を“NK”，長谷川を“YH”で表記してある。

### ナガヒラタムシ科

ナガヒラタムシ *Tenomerga mucida*

18. VI. 1990, 1 ex. NK.

### ハンミョウ科

エリザハンミョウ *Cicindela elisae*

20. VI. 1986, 1 ex. YH ; 29. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 17. VI. 1987, 2 ex. NK, YH ; 18. VII. 1990, 1 ex. NK ;

20. VI. 1986, 1 ex. NK ; 5. VIII. 1986, 1 ex. NK.

コハンミョウ *Cicindela specularis*

5. VIII. 1986, 1♂ NK ; 29. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 18. VII. 1990, 1 ex. YH.

### カワラゴミムシ科

カワラゴミムシ *Omophron aequalis*

4. IX. 1986, 6 ex. NK, YH.

### オサムシ科

ヒメマイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides*

9. X. 1987, 1 ♀ YH.

キイロチビゴモクムシ *Acupalpus inonatus*

17. VI. 1987, 1 ex. YH ; 2. VII. 1987, 1 ex. YH ; 24. VII. 1989, 2 ex. NK, YH.

オオマルガタゴミムシ *Amara gigantea*

17. VI. 1987, 1 ex. NK ; 4. IX. 1986, 4 ex. NK, YH.

キアシマルガタゴミムシ *Amara ampliata*

27. V. 1987, 1 ex. YH.

マルガタゴミムシ *Amara chalites*

13. V. 1988, 1 ex. YH.

オオホシボシゴミムシ *Anisodactylus sadoensis*

27. V. 1987, 1 ex. NK.

キベリゴモクムシ *Anoplogenius cyanescens*

20. VI. 1986, 1 ex. NK ; 19. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 27. V. 1987, 3 ex. NK, YH ; 17. VI. 1987, 1 ex. YH ;

18. VII. 1990, 2 ex. NK, YH.

- フタモンクビナガゴミムシ *Archicolluris bimaculata nipponica*  
 19. VIII. 1986, 4 ex. NK, YH ; 25. VIII. 1986, 1 ex. NK ; 4. IX. 1986, 1 ex. NK ; 17. VI. 1987, 2 ex. NK, YH  
 ; 1 ex. NK ; 2. VII. 1987, 1 ex. YH.
- ヨツモンカタキバゴミムシ *Badister pictus*  
 2. VII. 1987, 1 ex. NK ; 24. VII. 1989, 2 ex. NK, YH ; 18. VII. 1990, 1 ♀ NK.
- キベリカタキバゴミムシ *Badister marginellus*  
 19. VIII. 1986, 1 ex. YH.
- キベリアオゴミムシ *Chlaenius circumductus*  
 15. VI. 1986, 1♂ NK.
- ヒメキベリアオゴミムシ *Chlaenius inops*  
 20. VI. 1986, 1 ex. YH ; 25. VIII. 1986, 1♂ NK ; 14. X. 1986, 1 ex. YH ; 27. V. 1987, 1♀ NK ;  
 17. VI. 1987, 2♀ NK, YH ; 2. VII. 1987, 1♂ 1♀ NK, YH.
- アオゴミムシ *Chlaenius pallipes*  
 5. VIII. 1986, 1♀ NK ; 4. IX. 1986, 1♂ NK ; 27. V. 1987, 1♂ 1♀ NK ; 17. VI. 1987, YH ; 13. III.  
 1988, 1♂ 1♀ NK.
- オオサカアオゴミムシ *Chlaenius pericallus*  
 2. VII. 1987, 1♂ NK ; 4. IX. 1986, NK.
- ムナビロアオゴミムシ *Chlaenius sericimicans*  
 24. VII. 1989, 1♂ NK.
- コガシラアオゴミムシ *Chlaenius variicornis*  
 17. VI. 1987, 1♀ NK ; 2. VII. 1987, 1♀ NK ; 25. VIII. 1986, 1♂ NK ; 27. V. 1987, 1♂ NK ; 29.  
 VI. 1986, 1♂ NK ; 5. VIII. 1986, NK.
- キボシアオゴミムシ *Chlaenius posticalis*  
 17. VI. 1987, 1 ex. YH.
- オオアトボシアオゴミムシ *Chlaenius micans*  
 2. VII. 1987, 2 ex. YH.
- スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger*  
 27. V. 1987, 1 ex. YH.
- ヒメヒョウタンゴミムシ *Clivina nipponensis*  
 27. V. 1987, 1 ex. NK.
- オオスナハラゴミムシ *Diplcheila zeelandica*  
 2. VII. 1987, 1♂ NK.
- アオヘリホソゴミムシ *Drypta japonica*  
 19. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 25. VIII. 1986, 4 ex. NK, YH ; 4. IX. 1986, 1 ex. NK ; 17. VI. 1987, 2 ex.  
 NK, YH.
- オオキベリアオゴミムシ *Epomis nigricans*  
 2. VII. 1987, 1♀ NK ; 15. VIII. 1991, 1 ex. YH.
- ウスアカクロゴモクムシ *Harpalus sinicus*  
 19. VIII. 1986, 1 ex. YH.
- オオゴモクムシ *Harpalus capito*  
 25. VIII. 1986, 1 ex. YH.

- トックリゴミムシ *Lachnocrepis prolixa*  
18. VII. 1990, 1♂ NK.
- キクビアオアトキリゴミムシ *Lachnolebia cribricollis*  
2. VII. 1987, 2ex. NK, YH.
- フタボシチビゴミムシ *Lasiotrechus discus*  
18. VII. 1990, 1♂ NK.
- ナガクロキバナクビナガゴミムシ *Odacantha puziloi*  
19. VIII. 1986, 4ex. NK ; 4. IX. 1986, 1ex. NK.
- チャバナクビナガゴミムシ *Odacantha aegrota*  
19. VIII. 1986, 3ex. YH.
- ニセトックリゴミムシ *Oodes helopionides tokyoensis*  
18. VII. 1990, 1♀ NK.
- クビナガゴモクムシ *Oxycentrus argutroides*  
27. V. 1987, 1ex. NK.
- ヨツボシゴミムシ *Panagaeus japonicus*  
24. VII. 1989, 1ex. NK.
- ヒラタアトキリゴミムシ *Parena cavipennis*  
4. IX. 1986, 1ex. NK ; 17. VI. 1987, 1ex. YH.
- キアシヌレチゴミムシ *Patrobus flavipes*  
27. V. 1987, 1♀ NK.
- イグチケブカゴミムシ *Peronomerus auripilis*  
4. IX. 1986, 1ex. NK ; 17. VI. 1987, 1ex. YH.
- クロケブカゴミムシ *Peronomerus nigrinus*  
2. VII. 1987, 2ex. NK, YH ; 4. IX. 1986, 2ex. NK.
- コガシラナガゴミムシ *Pterostichus microcephalus*  
13. III. 1988, 1♀ NK.
- ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola pacificus*  
20. VI. 1986, 1ex. NK.
- セグロマメゴモクムシ *Stenolophus connotatus*  
29. VI. 1986, 1ex. NK ; 19. VIII. 1986, 1ex. YH ; 17. VI. 1987, 1ex. YH ; 18. VII. 1990, 1ex. YH.
- ミドリマメゴモクムシ *Stenolophus difficilis*  
17. VI. 1987, 1ex. NK ; 2. VII. 1987, 2ex. NK, YH ; 5. VIII. 1986, 1ex. NK.
- マメゴモクムシ *Stenolophus fulvicornis*  
27. V. 1987, 1ex. NK.
- クロサマメゴモクムシ *Stenolophus kurosai*  
27. V. 1987, 1ex. NK.
- ムネアカマメゴモクムシ *Stenolophus propinquus*  
18. VII. 1990, 1ex. NK ; 2. VII. 1987, 1ex. NK ; 24. VII. 1989, 1ex. NK ; 4. IX. 1986, 1ex. NK.
- イツホシマメゴモクムシ *Stenolophus quinquepustulatus*  
4. IX. 1986, 1ex. NK.

オオクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus nitidus*  
29. VI. 1986, 1 ♀ NK .

クビボソゴミムシ科

オオクビボソゴミムシ *Brachinus scotomedes*  
2. VII. 1987, 1 ex. NK .

ゲンゴロウ科

マメゲンゴロウ *Agabus japonicus*  
15. V. 1986, 1 ex. NK ; 20. VI. 1986, 2 ex. NK.

セスジゲンゴロウ *Copelatus japonicus*  
19. VIII. 1986, 7 ex. NK, YH ; 25. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 4. IX. 1986, 8 ex. NK, YH ; 2. VII. 1987, 1 ex. NK ; 24. VII. 1989, 2 ex. NK, YH.

ホソセスジゲンゴロウ *Copelatus wegmarni*  
20. VI. 1986, 1 ex. YH ; 19. VIII. 1986, 8 ex. NK ; 4. IX. 1986, 4 ex. NK, YH.

ハイイロゲンゴロウ *Eretes sticticus*  
19. VIII. 1986, 1 ♀ NK ; 25. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 29. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 4. IX. 1986, 1 ♂ 1 ♀ NK ; 17. VI. 1987, 1 ♀ NK ; 27. V. 1987, 1 ♂ NK.

チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus*  
15. VI. 1986, NK ; 4. IX. 1986, NK.

コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus*  
15. VI. 1986, 1 ex. NK ; 20. VI. 1986, 3 ex. NK, YH ; 19. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 17. VI. 1987, 1 ex. YH.

オオイチモンジシマゲンゴロウ *Hydaticus pacificus conspersus*  
5. VIII. 1986, 1 ex. NK.

ツブゲンゴロウ *Laccophilus difficilis*  
17. VI. 1987, 1 ex. NK ; 4. IX. 1986, 4 ex. NK.

ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverorus*  
15. VI. 1986, 1 ex. NK ; 19. VIII. 1986, 2 ex. YH ; 17. VI. 1987, 1 ex. YH .

セスジガムシ科

セスジガムシ *Helophorus auriculatus*  
27. V. 1987, 1 ex. NK .

ガムシ科

コガムシ *Hydrochara affinis*  
20. VI. 1986, 2 ex. NK, YH.

ヒメガムシ *Sternolophus rufipes*  
15. VI. 1986, 1 ex. NK ; 19. VIII. 1986, 1 ex. YH.

トゲバゴマフガムシ *Berosus lewisius*  
20. VI. 1986, 2 ex. YH ; 2. VII. 1987, 1 ex. YH ; 17. VI. 1987, 1 ex. YH.

キイロヒラタガムシ *Enochrus simulans*  
20. VI. 1986, 2 ex. YH ; 19. VIII. 1986, 1 ex. YH ; 4. IX. 1986, 2 ex. YH ; 17. VI. 1987, 1 ex. YH.

キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus*  
27. V. 1987, 1 ex. YH.

## シテムシ科

モモブトシテムシ *Necrodes nigricornis*  
19. VIII. 1986, 1♂ NK.

ヤマトモンシテムシ *Nicrophorus japonicus*  
19. VIII. 1986, 1 ex. YH; 25. VIII. 1986, 4 ex. NK, YH; 4. IX. 1986, 3 ex. NK, YH.

マエモンシテムシ *Nicrophorus maculifrons*  
20. VI. 1986, 1 ex. NK; 17. VI. 1987, 2 ex. YH; 2. VII. 1987, 1 ex. YH.

クロシテムシ *Nicrophorus concolor*  
2. VII. 1987, 1 ex. YH.

コクロシテムシ *Nicrophorus morio*  
19. VIII. 1986, 1 ex. YH.

ヒメヒラタシテムシ *Thanatophilus sunuatus*  
27. V. 1987, 1 ex. YH.

(きの なおと 〒167 東京都杉並区井草 1-32-1-103)  
(はせがわ よう 〒181 三鷹市大沢 1-2-39, 川崎荘 102)

埼玉県寄居町におけるケシマグソコガネ類の採集記録

内田 正吉

筆者は埼玉県大里郡寄居町において、埼玉県未記録と思われるケシマグソコガネ類を2種採集しているので報告する。標本も筆者が保管している。同定並びに発表をすすめられた小田博氏に厚くお礼申し上げます。

1. コケシマグソコガネ *Rhyssemus samurai* (Balthasar)  
1 ex., 埼玉県大里郡寄居町桜沢中小前田, 10. VI. 1986, 内田正吉 leg.
2. ホソケシマグソコガネ *Trichiorhyssemus asperulus* (Waterhouse)  
1 ex., 埼玉県大里郡寄居町桜沢中小前田, 14. III. 1987, 内田正吉 leg.

2種とも、中小前田にある自宅の庭で得られたものである。採集当時の庭の状態は、比較的乾いた土が広く露出していたので、2種にとって適した環境であったものと思われる。

(うちだ まさよし ☎369-12 大里郡寄居町桜沢 1505)

.....

# ツルグレン装置により取り出した小型甲虫類

野村 周平・南部 敏明

.....

筆者の一人南部はアリを調べる目的で、採集調査に行った帰りにバケツ半分ほどの土を採取してきてツルグレン装置にかけている。同時に様々な昆虫が出てくるが、一部しか標本にしていない。それでもアリヅカムシなどが少したまったので、野村に送り、野村が同定して以下のリストを作成した。一部東京での採集品も含んでいるが、埼玉県昆虫誌のための資料として報告する。

なお、同時にその他の甲虫も送り、それらも同定されたので記録しておきたい。その他の科の甲虫を同定して下さった八尋克郎、上野輝久、小島弘昭諸氏に厚くお礼申し上げる。

===== 埼玉県（一部東京都）産アリヅカムシ採集リスト =====

## PSELAPHIDAE アリヅカムシ科

### FARONINAE ムカシアリヅカムシ亜科

- 1. *Parapyxidicerus carinatus* K. SAWADA シュモクアリヅカムシ  
 1 ♀, Tatekawa-damu, Koshigoe, Ogawa, 6. IX. 1992.  
 1 ♂, Yoobake, Ogano T., 3. VI. 1990.

### EUPLECTINAE ナガアリヅカムシ亜科

- 2. *Pseudozibus longicollis* JEANNEL ホソヒメアリヅカムシ  
 2 ♀, Oegawa, Konan, 4. V. 1993.
- 3. *Philoscotus* sp.  
 2 ♀, Moriyado, Ogano, 6. VII. 1988.

### BATRISINAE ムネトゲアリヅカムシ亜科

- 4. *Petaloscapus basicornis* (SHARP) ヒゲブトムネトゲアリヅカムシ  
 1 ♂ 2 ♀, Shio, Konan, 16. IV. 1993.  
 2 ♀, Yoobake, Ogano, 3. VI. 1990.  
 1 ♀, Takinosawa, Ootaki, 7. VI. 1992.  
 1 ♀, Koshigoe, Ogawa, 6. X. 1992.  
 1 ♂, Wada, Ogano, 2. VII. 1988.  
 1 ♀, Ishidojuku, Kitamoto C., 26. V. 1990.  
 1 ♂ 6 ♀, Nakafuji, Musashi-murayama, Tokyo, 8. V. 1993.

5. *P.* sp. 1  
 1♂2♀, Ogose, 28. VII. 1980.  
 1♂, Tatekawa-damu, Koshigoe, Ogawa, 6. IX. 1992.  
 1♂, Yukie, Ogawa, 1. V. 1993.
6. *P.* sp. 2  
 1♂, Yaku pass, Ogano, 16. IV. 1988.
7. *Basitrodes* ? sp.  
 1♀, Kodomo-park, Ishidojuku, Kitamoto C., 20. VI. 1990.
8. *Batriscenaulax longipes longipes* JEANNEL  
 2♂, Mikayama, Yorii, 22. V. 1983.  
 1♀, Kakkaku, Ogano, 4. V. 1989.  
 1♀, Wada, Ogano, 2. VII. 1988.
9. *Batriscenellus (Batriscenellinus) uenoi* NOMURA  
 1♂, Kakkaku, Ogano, 6. VII. 1988.
10. *Batrisceniola dissimilis* (SHARP) アナズアリヅカムシ  
 3♂, Juniten, Kodama, 14. VI. 1992.

## GONIACERINAE オノヒゲアリヅカムシ亜科

11. *Takaorites* sp.  
 4♀, Tatekawa-damu, Koshigae, Ogawa, 6. IX. 1992.
12. *T.* ? sp.  
 1♂4♀, Kakuyama, Ogawa, 30. III. 1993.
13. *Morana discedens* SHARP マメダルマアリヅカムシ  
 1♂1♀, Yoobake, Ogano, 3. VI. 1990.  
 1♂, Ishidojuku, Kitamoto C., 17. V. 1992.  
 2♂2♀, Takao, Kitamoto C., 1. VI. 1992.  
 1♂2♀, Koshigoe, Ogawa, 6. X. 1992.  
 1♂, Yukie, Ogawa, 1. V. 1993.  
 2♀, Oegawa, Konan, 4. V. 1993.  
 9♂18♀, Nakafuji, Musashi-murayama, Tokyo, 8. V. 1993.
14. *M. elegans* TANOKUCHI  
 本州及び四国の太平洋側に局地的に発見される。  
 1♂, Tatekawa-damu, Koshigoe, Ogawa, 6. IX. 1992.
15. *Triomicrus* sp.  
*T. protervus* (SHARP) マルムネアリヅカムシの近縁種で本州北部から九州に分布する。落葉中に普通。  
 1♀, Kakuyama, Ogawa, 30. III. 1993.

- 2 ♀, Mt. Hiwada, Hidaka, 1. X. 1988.  
 1 ♀, Moriyado, Ogano, 6. VII. 1988.  
 1 ♀, Kiroko, Ogawa, 6. X. 1992.  
 1 ♀, Koshigoe, Ogawa, 6. X. 1992.  
 1 ♀, Juniten-ike, Kodama T., 3. XI. 1989.  
 1 ♂, Ogose, 28. VII. 1980.  
 1 ♀, Kanetsukido, Yorii, 19. X. 1986.  
 1 ♂, Oegawa, Konan, 10. IV. 1993.  
 1 ♀, Yukie, Ogawa, 1. V. 1993.
16. *Bryaxis (Bythiniama)* sp. 1  
 1 ♂ 1 ♀, Mikayama, Yorii, 4. VI. 1983.  
 1 ♂ 1 ♀, Nakafuji, Musashi-murayama, Tokyo, 8. V. 1993.
17. *B. (Bn.)* sp. 2  
 1 ♂, Koshigoe, Ogawa, 6. X. 1992.  
 1 ♂ 2 ♀, Mikayama, Yorii, 22. V. 1983.  
 1 ♂, Yoobake, Ogano., 3. VI. 1990.
18. *B. (Bythobletus)* sp. 3  
 1 ♂, Mt. Buko, 2. X. 1977.  
*B.* sp.  
 1 ♀, Mt. Hiwada, Hidaka, 11. XII. 1988.  
 1 ♀, Takao, Kitamoto C., 1. VI. 1992.  
 2 ♀, Yukie, Ogawa, 1. V. 1993.
19. *Tainochus* sp. 1  
 本属は, Kurbatov (1992) によって千島国後島から新たに記載されたもので, 韓国からも2種が知られる (Nomura, 1993)。従来日本からは知られていないが, 数種が産する。  
 1 ♂, Kakkaku, Ogano, 18. IX. 1988.  
 1 ♀, Juniten, Kodama, 14. VI. 1992.
20. *T.* sp. 2  
 1 ♀, Ishidojuku, Kitamoto, 26. V. 1990.
- PSELAPHINAE ヒゲナガアリヅカムシ亜科
21. *Paracyathiger fujiyamai* (KUBOTA) フジヤマダルマアリヅカムシ  
 本州 (及び四国?) に分布し, 落葉中や倒木樹皮下などから得られる。  
 1 ♂, Aoyama, Ogawa, 11. X. 1992.
22. *Lasinus spinosus* SHARP オオトゲアリヅカムシ  
 1 ♂, Juniten-ike, Kodama, 3. XI. 1989.  
 1 ♂, Mt. Kanetsukido, Yorii, 19. X. 1986.



1 ♀, Mikayama, Yorii, 29. V. 1983.

23. *Dicentrius* sp.

1 ♂, Kakkaku, Ogano, 4. V. 1989.

CLAVIGERINAE ヒゲブトアリヅカムシ亜科

24. *Diartiger fossulatus* SHARP コヤマトヒゲブトアリヅカムシ

好蟻性の種で, *Lasius*, *Formica*, *Paratrechina* などのアリの巢中に見いだされ, 普通。

2 ♀, Higashi-Kodaira, Kannon, Kodama, 17. VIII. 1989.

2 ♂, Kakuyama, Ogawa, 30. III. 1993.

CARABIDAE オサムシ科 (八尋克郎氏 同定)

1. *Paratachys fasciatus uenoi* (TANAKA) クロオビコミズギワゴミムシ

1 ex., Kiroko, Ogawa, 15. IX. 1992.

1 ex., Arakawa Riv., Oshikiri, Konan, 27. III. 1993.

2. *Perigona nigriceps* (DEJEAN) クロズホナシゴミムシ

1 ex., Aoyama, Ogawa, 11. X. 1992.

CUCUJOIDEA ヒラタムシ上科 (上野輝久氏 同定)

NITIDULIDAE ケシクスイムシ科

1. *Stenidota multiguttata* REITTER マルキマダラケシクスイ

1 ex., Koshigoe, Ogawa, 6. X. 1992.

CRYPTOPHAGIDAE キスイムシ科

2. *Caenoscelis kurosawai* SASAJI ヘリムネクスイ

1 ex., Arakawa Riv., Oshikiri, Konan, 27. III. 1993.

3. *Cryptophagus decoratus* REITTER クロモンクスイ

1 ex., Koshigoe, Ogawa, 6. X. 1992.

LANGURIIDAE コメツキモドキ科

4. *Anadastus atriceps* (CROTCH) キムネヒメコメツキモドキ

1 ex., Yorii, 12. VII. 1981.

CERYLONIDAE カクホソカタムシ科

5. *Cautomus hystriculus* SHARP ムネビロカクホソカタムシ

1 ex., Shio, Konan, 16. IV. 1993.

COCCINELLIDAE テントウムシ科

6. *Prorylea japonica* (THUNBERG) ヒメカメノコテントウ

1 ex., Nishiwada, Ogose, 15. VI. 1983.

**COLYDIIDAE** ホソカタムシ科

7. *Penthelispa (Pycnomerus) vilis* (SHARP) ツヤナガヒラタホソカタムシ  
1 ex., Ogose, 17. VI. 1982.

**ANTHICIDAE** アリモドキ科

8. *Macratria japonica* HAROLD キアシクビボソムシ  
1 ex., Kakuyama, Ogawa, 30. III. 1993.

**CURCULIONIDAE** ゾウムシ科 (小島弘昭氏 同定)

1. *Trachyrhinus* sp.  
2 exs., Tatekawa-damu, Koshigoe, Ogawa, 6. IX. 1992.
2. *Rhyncaenus japonicus* (HUSTACHE)  
1 ex., Nishiwada, Ogose, 15. VI. 1983.
3. *Curculio roerofsi* (HELLER)  
1 ex., Aoyama, Ogawa, 11. X. 1992.
4. *Rhinoncus jakovlevi* FAUST  
1 ex., Nishiwada, Ogose, 15. VI. 1983.

( のむら しゅうへい 〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学農学部昆虫学教室 )

( なんぶ としあき ☎369-12 大里郡寄居町桜沢 2397-2 )

.....

## 入間市仏子（加治丘陵）の小蛾類

川 辺 湛

.....

1990年に井上寛・市川和夫は入間市加治丘陵自然環境調査の一貫として、「加治丘陵の蛾類」をまとめられた。その中で扱われた小蛾類は6科34種である。私は井上寛先生が仏子に転居されてから、ご自宅で採集された小蛾類の大半を頂いており、今回それらを整理することが出来たので、ここに記録・報告させて頂くことにした。

6科68種をリスト・アップしたが、上述の井上・市川のリストに共通する種には番号の前に\*をつけた（仏子からの記録のみ）。また、リストにあって私のものがない種は番号を付けず記録のみを加えた。これらを合計すると、井上先生が仏子のご自宅で採集され、確認された小蛾類は8科78種となる。

長年にわたって標本をご恵与下さった井上寛先生に厚くお礼申し上げます。

Incurvariidae マガリガ科

Adelinae ヒゲナガ亜科

1. *Nemophora trimetrella* STRINGER ホソフタオビヒゲナガ  
1♀, 3 VI 1977

Cossidae ボクトウガ科

*Zeuzera multistrigata leuconota* BUTLER ゴマフボクトウ  
井上・市川 (1990)

Tortricidae ハマキガ科

Tortricinae ハマキガ亜科

*Pandemis corylana* (FABRICIUS) ウスアミメトビハマキ  
井上・市川 (1990)

*P. cinnamomeana* (TREITSCHKE) アカトビヒメハマキ  
井上・市川 (1990)

1. *Pandemis chlorograptia* MEYRICK ウストビハマキ  
6月と8月に普通

*Archips capsigeranus* (KENNEL) カタカケハマキ  
井上・市川 (1990)

- \*2. *Archips audax* RAZOWSKI アトキハマキ  
5月下旬から8月にかけて極めて普通
- \*3. *Archips ingentanus* (CHRISTOPH) オオアトキハマキ  
1♂, 17 VI 1981.
- \*4. *Archips oporanus* (LINNAEUS) マツアトキハマキ  
5月から6月にかけて極めて普通
- \*5. *Archips pulcher* (BUTLER) タテスジハマキ  
6月と9月に極めて普通
6. *Archips nigricaudanus* WALSINGHAM シリグロハマキ  
5月下旬から6月上旬に普通
- \*7. *Hoshinoa longicellana* WALSINGHAM アトボシハマキ  
6月から8月にかけてきわめて普通
- \*8. *Ptycholoma lecheana circumclusana* (CHRISTOPH) オオギンスジハマキ  
1♂, 13 VI 1977; 1♀, 31 V 1978.
- \*9. *Homona magnanima* DIAKONOFF チャハマキ  
1♀, 15 VII 1977; 1♂, 5 V 1978.
10. *Adoxophyes* sp. チャノコカクモンハマキ  
5月下旬から7月にかけて極めて普通
11. *Homonopsis foederatana* (KENNEL) ツツリモンハマキ  
1♂, 30 V 1977
12. *Argyrotaenia (Argyrotaenia) congruentana* (KENNEL) トビモンコハマキ  
1♂, 1 VI 1977
13. *Gnorismoneura hoshinoi* (KAWABE) ホシノハマキ  
6月下旬に普通
14. *Cnephasia (Cnephasia) cineripalpana* RAZOWSKI ホソバハイイロハマキ  
1♂, 27 V; 1♂, 3 VI; 1♂, 13 VI 1977
15. *Kawabeia razowskii* (KAWABE) ハイイロフユハマキ  
2月下旬から3月上旬に極く普通に採れている
- \*16. *Kawabeia nigricolor* YASUDA & KAWABE ウスグロフユハマキ  
1♂, 12 II 1978. この個体は副模式標本である。
17. *Acleris platynotana* (WALSINGHAM) フタスジクリイロハマキ  
1♂, 11 VI 1987
18. *Acleris pulchella* KAWABE マエキハマキ  
1♂, 6 VII 1978; 1♂, 24 VII 1981.
19. *Acleris placata* (MEYRICK) チャモンシロハマキ  
1♂, 25 VI 1978.

- \*20. *Acleris affinitana* (SNELLEN) プライヤハマキ  
夏型は6月下旬から8月にかけて、越冬型は10月下旬から5月上旬まで普通に見られる。
21. *Acleris japonica* (WALSINGHAM) ナカジロハマキ  
1♂, 24 V; 1♂, 6 VII 1978; 1♀, 28 II 1976.
- \*22. *Acleris hispidana* (CHRISTOPH) ハイミダレモンハマキ  
10月上旬から4月上旬にかけて普通
23. *Croesia fusgotogata* (WALSINGHAM) モトキハマキ  
1♀, 6 XI 1978.
- \*24. *Tortrix sinapina* (BUTLER) ウスアミメキハマキ  
5月から7月にかけて普通

## Olethreutinae ヒメハマキガ亜科

- Cryptasasma matginifasciata* (WALSINGHAM) ヘリオビヒメハマキ  
井上・市川 (1990)
25. *Eudemis profundana* (D. & SCHIFF.) ツママルモンヒメハマキ  
2♂, 22-27 VI 1981
- \*26. *Hystichosolus spathanum* WALSINGHAM コシロアシヒメハマキ  
5月下旬から6月と9月から10月にかけて多数飛来する
27. *Hedya auricristana* (WALSINGHAM) グミオオウスツマヒメハマキ  
5月から6月と8月にかけて普通
- \*28. *H. inornata* (WALSINGHAM) オオサザナミヒメハマキ  
6月に見られる
29. *H. dimidiana* (CLERCK) シロモンヒメハマキ  
1♂, 24 V 1979
30. *H. vicinana* (RAGONOT) シラフオオヒメハマキ  
1♂, 18 VI 1978
31. *Apotomis platycrema* (MEYRICK) ニセネジロクロヒメハマキ  
1♂, 21 VI 1981
32. *Olethreutes electana* (KENNEL) ウツギヒメハマキ  
3♂, 29 V 1978; 1♂, 1 VI 1987; 1♂, 10 VI 1981
- O. subelectana* KAWABE ニセウツギヒメハマキ
- O. flavifasciana* KAWABE キオビヒメハマキ  
上記の2種は共に井上・市川 (1990) でリストされたものであるが、  
近似種が3種とも採れる場所は珍しい。
33. *O. obovata* (WALSINGHAM) クリオビキヒメハマキ  
5月下旬から8月にかけて普通

34. *O. moderata* FALKOVITSH ナツハゼヒメハマキ  
1♂, 24 VIII 1978
35. *O. orthocosma* (MEYRICK) コクリオビクロヒメハマキ  
6月に普通
36. *Celypha flavipalpana* (HERRICH-SCHÄFFER) コキスジオビヒメハマキ  
1♂, 24 VII 1978
37. *Endothenia banausopis* (MEYRICK) ツマジロクロヒメハマキ  
2♂, 11-18 IX 1977
38. *E. remigera* FALKOVITSH コクロヒメハマキ  
1♂, 24 VIII 1978
39. *Lobesia cocophaga* FALKOVITSH スイカズラホソバヒメハマキ  
1♂, 1♀, 11-13 VI 1977
40. *Ancylis amplimacula* FALKOVITSH マエモンマダラカギバヒメハマキ  
1♂, 13 V 1977; 1♀, 21 V 1981
41. *A. partitana* (CHRISTOPH) カバカギバヒメハマキ  
1♂, 5 V 1979
42. *Rhopalovalva pulchra* (BUTLER) キカギハメハマキ  
4月下旬から5月上旬にかけて普通
43. *Eucoenogenes ancyrota* (MEYRICK) モッコクヒメハマキ  
2♂, 16 VIII 1978
44. *Spilonota albicana* (MOTSCHULSKY) シロヒメシンクイ  
1♀, 25 VI 1981
- \*45. *Epinotia bicolor* (WALSINGHAM) ヒロオビヒメハマキ  
6月中旬に普通
46. *E. rubiginosana koraiensis* FALKOVITSH マツノクロマダラヒメハマキ  
6月上・中旬に普通
- \*47. *E. bushiensis* KAWABE ムモンツチイロヒメハマキ  
3♂, 20 X 1973. 3♂は何れも完・副模式標本である。
48. *Notocelia autolitha* (MEYRICK) ウスシロモンハメハマキ  
1♂, 11 VI 1977
49. *N. rosaecolana* (DOUBLEDAY) バラシロヒメハマキ  
1♂, 1 VI 1981
- \*50. *Epiblema foenalla* (LINNAEUS) ヨモギネムシガ  
2♂, 13 VI 1977
51. *E. inconspicua* (WALSINGHAM) クロウンモヒメハマキ  
1♂, 3 VII; 1♂, 1♀, 9 VIII 1987

- \*52. *E. sugii* KAWABE スギヒメハマキ  
1♂, 13 VI 1977
53. *Eucosma gelebana* (SNELLEN) カバイロスソモンヒメハマキ  
1♂, 20 V 1979
54. *E. nipponica* KAWABE ニセコシワヒメハマキ  
5月下旬から6月上旬にかけて普通
55. *Matsumuraeses falcana* (WALSINGHAM) ニセマメサヤヒメハマキ  
1♀, 23 IV 1977; 1♀, 23 V 1981
56. *Grapholita quadlistriana* WALSINGHAM ヨツスジヒメシンクイ  
6-7月と9-10月に採れる
57. *Pammene nemorosa* KUZNETZOV ネモロウサヒメハマキ  
1♂, 1 V; 1♂, 9 V 1978
58. *P. obscurana* (STEPHENS) ウスグロヒメハマキ  
2♂, 2♀, 23-24 IV 1979
- \*59. *Cydia kurokoi* (AMSEL) クリミガ  
9月から10月上旬にかけて普通
- C. glandicolana* (DANILEVSKY) サンカクモンヒメハマキ  
井上・市川 (1990)

## Cochylidae ホソハマキガ科

- Phtheochroides clandestina* RAZOWSKI ヨモギオオホソハマキ  
井上・市川 (1990)

## Tineidae ヒロズコガ科

## Myrmecozelinae フサクチヒロズコガ亜科

1. *Hypophrictis capnomicta* MEYRICK マダラマルハヒロズコガ  
1♀, 12 VII 1981; 1♂, 1♀, 26 VII 1980

## Yponomeutidae スガ科

## Plutellinae クチブサガ亜科

- Ypsolopha blandellus* (CHRISTOPH) オオキクチブサガ  
井上・市川 (1990)

## Yponomeutinae スガ亜科

1. *Yponomeuta evonymellus* (LINNAEUS) サクラスガ  
1♂, 27 VI 1980

Oecophoridae マルハキバガ科

Oecophorinae マルハキバガ亜科

- \*1. *Martyringa xeraula* (MEYRICK) コクマルハキバガ  
1♂, 22 VI 1980; 1♂, 15 VII 1981
- \*2. *Casmara agronoma* MEYRICK ホソバキホリマルハキバガ  
1♀, 25 VII 1980; 1♀, 4 VIII 1978
3. *Promalactis enoposema* (BUTLER) シロスジベニマルハキバガ  
1♀, 3 VI 1977

Stathmopodidae ニセマイコガ科

1. *Stathmopoda masinissa* MEYRICK カキノヘタムシガ  
1♀, 3 VI 1977; 1♂, 6 VI 1982

Cosmopterigidae カザリバガ科

Cosmopteriginae カザリバガ亜科

1. *Syntomacula simulalella* (WALKER) オオクロボシトガリホソガ  
1♂, 27 VI 1980
2. *Stagmatophora niphosticta* MEYRICK ギンスジトガリホソガ  
1♂, 22 VI 1979

引用文献

- 井上 寛・市川和夫, 1990. 加治丘陵 (埼玉県入間市) の蛾類.  
加治丘陵自然環境調査報告書, 37pp.



.....

## 詩にあらわれた蝶 (5)

.....

荒木 崇

.....

まずは一編の詩も採らない。新手の反則技か?という、さにあらず。ともかくも最後まで読んでいただきたい。

\* \* \* IX \* \* \*

ヴィリエ・ド・リイル・アダンに「残酷篇 (コント・クリュエル)」という短編小説集がある。その中に「感傷主義 (サンチマンタリズム)」と題する一話が収められている。文庫本の頁数にして十ページあまりの短かいお話しであるが、訳者辰野隆先生の筆になるその梗概をまず引こう。

「春の一夜、パリシンゼリゼエ大通りの並樹の下で、青年貴族マキシミリヤンと佳人リュシエンヌが極めて物静かに語り合っている。二人は既に半年ほど前からの恋仲であったが、リュシエンヌには、徹底的に芸術家であるマキシミリヤンの、二重にも三重にも綾のある心理が徒らに複雑に思われ冷やかにさえ感じられるのに漸く不安と恐怖の念を抱くようになって、その夜、彼女は男に、分れ話を持ち出す決心をしたのであった。彼女は自分の決心を語る準備として、『芸術は宿命的に感情硬化に到達するのではなからうか』という質問に事寄せて、彼女の焦慮とアンニュイとを仄めかした。この質問に対して、マキシミリヤンは極めて穏やかな風刺的な実話を以て答えるが、その答えがこの短編の骨子なのである。」さて、マキシミリヤンの諷刺的な実話というのは大略、次のようなものであった。ある声楽家はその許嫁の死の床に侍して、その臨終に立会う。傍らには許嫁の妹が身を慄わせ、声をあげて泣きむせている。彼は許嫁の死を悲しみながらも、その妹の涕泣に発声法上の欠陥があることに気付いて、その涕泣に迫力を添えるには適度の訓練を要するのではないかと不図考えたのであった。さてこの声楽家は許嫁との死別の悲しみに日ならずして後を追うのであるが、その妹の方は世間一般の忌が明けると心置きなく喪服を脱いだのであった。このマキシミリヤンの答えはリュシエンヌの心を慰めずに、却っていよいよ不安をつのらせた。そうして覚悟を決めた彼女は別れ話をきり出し、気紛れから他の男との約束のあることを告げる。マキシミリヤンは悲痛な思いにおそわれるが、表面は至極冷静にリュシエンヌの申し出を受け入れ、なおしばし芸術家の心理について語った後、彼女ときれいに訣れる。そして家に帰った彼は、閉め切った部屋で『いやに胸騒ぎがするな』と呟きながらピストルの引金を引くのである。

以上がこのお話しのであらましである。そして、この短編の終わりに作者は数行の結びの句を添えた—

「この時以来、誰かがリュシエンヌに黒い喪の衣裳の理由を質すと、彼女は自分を慕ふ男たちに、陽気な語調で答へるのであった。——でも!仕方がないの!妾には黒が似合ふのですもの!

然し、女の喪の扇は、その時、胸の上で、墓石に憩まる黒胡蝶の羽のやうに顛へてみた。」

\* \* \* X \* \* \*

## 春の实体

萩原 朔太郎

かずかぎりもしれぬ虫けらの卵にて、  
 春がみつちりとふくれてしまった、  
 げにげに眺めみわたせば、  
 どこもかしこもこの類の卵にてぎっちりだ。  
 桜のはなをみてあれば、  
 桜の花にもこの卵いちめん<sup>い</sup>に透いてみえ、  
 やなぎの枝にも、もちろんなり、  
 たとへば蛾蝶のごときものさへ、  
 そのうすき羽は卵にてかたちづくれ、  
 それがあのように、ぴかぴかぴかぴか光るのだ。  
 ああ、瞳<sup>め</sup>にもみえざる、  
 このかすかな卵のかたちは楕円形にして、  
 それがいたるところに押しあひへしあひ、  
 空気中いつばいにひろがり、  
 ふくらみきつたごむまりのやうに固くなってあるのだ、  
 よくよく指のさきでつついてみたまへ、  
 春というものの实体がおよそこのへんにある。

(「月に吠える」所収)

萩原朔太郎のような詩人の詩に対する思いは複雑で、いくぶんか屈折したものにならざるを得ない。彼の詩を読むとき、私はいつもあるひとつのイメージを思い浮かべる。それは体からむきだしに摘出された、白く細い神経繊維をヴァイオリンの弓でひき、あるいは目の細かいサンドペーパーでそおとと擦っているという幻影だ。萩原朔太郎の「月に吠える」や「青猫」のような詩集は、詩人のそのような神経的な顫えと裸出された神経の過敏とを示しているように私は思うのだ。詩人の神経の顫えと過敏とは、度を越えた幻影を詩人の内にひきおこす。この詩にみる、極端に拡大された虫の卵のイメージは、そのような詩人の神経の所産といえるだろう。

このような詩に対する好みは、たぶんふたつに分かれるだろう。「たとへば蛾蝶のごときものさへ、  
／そのうすき羽は卵にてかたちづくられ、／それがあのやうに、ぴかぴかぴかぴか光るのだ。」とい  
う一節など蝶の、よく見ればグロテスクなすがたをとらえているが、同感できない人には言語道断であ  
ろう。

美しき<sup>こちよう</sup>胡蝶なれども気味悪く 杉田 久女

久女のこの句は、おそらく一般の人が蝶に対して潜在的にもつであろう背反的な印象を鋭い感覚によっ  
て句に定着したものだが、この句にある、ある種のあやういバランスは、一歩まちがうとグロテスクな  
イメージを生じかねないだろう。

\* \* \* XI \* \* \*

この連載も今回で五回目になる。手元にある詩には、なお紹介すべきものが多数残っているが、とり  
あえずこれをひとくぎりとしよう。

さて、最後にここに採るのは、蝶を愛した詩人、ヘルマン・ヘッセである。ヘッセの蝶をめぐる詩は  
多数にのぼるが、それらはフォルカー・ミヒェルス氏によってまとめられ、「蝶」という小さな、美し  
い本としてインゼル書店から出ている。そして、蝶に造詣の深い独文学者の岡田朝雄氏の訳によってそ  
の邦訳が出ていることは何という幸いであろう！氏の努力に対して深湛なる感謝の意を表し、同氏の訳  
によって数編の詩を引くことにしよう。

## 蝶

ヘルマン・ヘッセ

心に傷手を受けたときのことだった  
私は野原をさまよい歩いた  
そのとき一羽の蝶に出会った  
きわだつ白と深紅に彩られたその蝶は  
青い風の中をひらひら飛んでいた

おお おまえ！ 世界がまだ  
朝のように清らかだった子供の頃  
まだ天があんなに近く感じられた頃  
おまえが美しい羽を  
ひろげるのを見たのが最後だった

色美しくそよ風のように飛ぶおまえが  
私には天国から来たように思われて  
おまえの深い、神々しい輝きの前に  
私はなんとか離れ 恥じらいにみちて  
内気な目つきで立っていなければならぬことか！

白と深紅のその蝶は  
野の奥深くへと吹かれていった  
夢見心地で先へ歩いて行くと  
天国からもたらされたような  
静かな輝きが心に残った

(岡田朝雄訳)

1911年から18年にかけての年の詩。  
もう一編採ろう。

### 葡萄酒の中の蛾

ヘルマン・ヘッセ

ワインを満たした私のグラスの中に蛾が一つ飛び込んだ  
陶然として蛾は甘美な破滅に身をゆだね  
衰弱しつつ酒を漕ぎ、よろこんで死んでゆくとする  
とうとうその蛾を私の指がひろいあげた

私の心も 君の目に眩惑されて  
香ぐわしい愛のグラスによろこびにひたりつつ沈んで行く  
君の手の合図が私の運命を成就してくれないならば  
君の魔法のワインに酩酊してよろこんで死んでゆくだろう

(岡田朝雄訳)

1919年から1928年にかけての作とされる詩である。

ヘッセの蝶をめぐる詩と散文については、ぜひとも、岡田朝雄氏による邦訳書を読んでみて欲しい。この本がヘッセがわれわれに残してくれたかけがえのない贈り物であることが実感されるだろう。

ヘッセはしばしば「メルヘンの詩人」と評される。そして、その同じ評言は、二回の世界大戦を通じてヘッセと似た境遇をくぐりぬけてきた画家パウル・クレー——この画家の絵を私は心から愛するのだが——に対してもしばしばきかれる。しかし、この二人の本質が決ってそのみに尽きるものではないことは、彼らの書き残したもの——詩・小説、そしてクレーの場合は日記と手紙——をみれば明らかであろう。さて、今回ははからずも長くなったが、ヘッセの詩の中から「無常」という一編を引いてこの連載のしめくりとしよう。蝶とは関連はないのだが最後ということで大目に見ていただく。

## 無 常

ヘルマン・ヘッセ

命の木から葉が落ちる、  
一枚また一枚。  
おお、目くるめくばかり華やかな世界よ、  
なんとお前は満ち足らせることか、  
なんと満ち足らせ疲れさせることか、  
なんとお前は酔わせることか！  
きょうはまだあつく燃えているものが、  
間もなく消えてしまう。  
やがて、私の茶色の墓の上を  
風が音を立てて吹き過ぎる。  
幼な子の上に  
母が身をかかめる。  
母の目を私はもう一度見たい。  
母のまなざしは私の星だ。  
他のものはすべて移ろい消え去るがいい。  
すべてのものは死ぬ、喜んで死ぬ。  
永遠な母だけはとどまっている、  
私たちの生まれて来た母だけは。  
母の戯れる指が  
はかない虚空に私たちの名を書く。

(高橋健二訳)

了

(あらき たかし 〒399 長野県松本市寿台 2-4-23)

## 蝶標本の針抜き方法決定版？

中村 英夫

.....

先日のこと、埼玉県の蝶で記録に留めておくべきものなどが無いかと、上福岡市の自宅で標本をひさしぶりにゆっくり眺めながめていたときのことである。クロシジミの箱の中にひときわ虫体の位置が低く刺された段違いが目立つ、1973年ラベルの新座市（当時はまだ市ではなかったかな？）のものが数頭目にとまった。この段違いはあまりにもみっともない！ ついでに、オオルリシジミやアサマシジミの箱を見ると1974年以前に展翅した標本はどれもこれも新座のクロシジミと同じありさまではないか。

そうなるともう県内の蝶の記録ウンヌンどころではなく、これらのみっともない標本どもが気になりだしたので、携帯標本箱に入るだけ入れて京都の社宅へ持ち帰ったのである。

雨の連休を利用し、早速修理に掛かったわけであるが、まず針抜きにトライするに当たって採用したのは針をハンダ小手で加熱するという方法である。あわせてライターで針の端が赤熱するまで炙るとい手法も試みた。

結論を先にいえば、練習に使った、筆者が高校生の頃作製した標本に用いられていた素性のはっきりしない針（熱伝導度の高い材質で、概して錆びやすいものが多いように思われた）は比較的容易に抜けたものの、本命品に使っている志賀ステンレス針や1971年の展翅品に用いたドイツ製針には全く通用しなかったのである。なにしろ針を持つ指が少しも熱さを感じなかつたくらいである。

そこで無い知恵を絞り思考を巡らすことになる。

「指が熱くならない＝熱伝導性が悪い、ということは、電気伝導度も低く、当然、電気抵抗が大きいはずだから電流を流せば発熱するのではないか？」と。あとは仮説の検証、即実験である。

仮にダメでも標本を損傷するような事故は起こるまいと思い、いきなり本命の一つである1972年ラベル信州穂高のオオルリを選び作業に取り掛かったわけである。以下、「実験の部」風に記せば次の通りである。

試料；蝶展翅標本、志賀ステンレス無頭針0号使用

器材；1.5V単1型乾電池2本、銅線約15cm長2本、布製粘着テープ少量

単1型乾電池2本を直列につなぎ両極に銅線を布製粘着テープで固定した。試料の一端と銅線の一方の極を左手で接続しながら把持し、右手で他方の極の銅線を持ち試料のもう一方端で短絡した。約2秒後、タンパク質が焦げる臭いがするとともに虫体と針の境界でわずかの発煙が見られたところで短絡を解いた。ピンセットで虫体を動かしたところ容易に針を抜くことができた。

他の試料も動揺に処理し100%の成功率で針抜きを行うことができた。(N=28)

というわけで、現在これらの標本には新たに志賀有頭針0号が通され、再展翅によって形も高さも最近のものに揃えられて並んでいるのである。このテクニックを既に使っている人もいるかもしれないが、この際、厚かましくも新考案の発明者顔して紹介する。また、基本的には蝶以外の昆虫標本にも適用可能と思うがトライされる際はヤケドにご注意を。指が熱さに耐えられない人は装置化をお勧めする。

.....

## 石戸宿, その後(3)

碓井 徹

.....

前報を書いてから、もう1年以上が経ってしまった。前報以降も徐々に原稿は書きためてはいたものの、いざ掲載を、と思って整理し始めると、当地の昆虫相に関する新しい知見が発表されたり、当地にオープンした自然学習センターや自然観察公園をめぐる様々な新聞報道が出たりして、その都度原稿に手を入れていたので、なかなか思い切って文章をまとめる機会が訪れず、また、本誌の編集担当としても嬉しいことに、諸会員のみなさんからの本誌への投稿も多くて、私の長文を挟み込ませるタイミングも逸したまま、昨年6月発行の『寄せ蛾記64号』以来、ヤットコサの連載第3回目に辿りついた次第である。しかしながら今回は、執筆者兼編集者の立場として、発行予定日が目前にせまっていることもあって、ページ数調整の意味も込めて4ページに切り詰めている。用意した草稿の1/3も掲載されていないことが心残りである。

### 1. 昆虫相に関する新知見・報文の整理

筆者は、『寄せ蛾記48号 北本市石戸宿の昆虫類(特集号)』でまとめられた以降の当地の昆虫相に関する知見などを、本連載の1回目にまとめたが(碓井, 1991), その後に発表された当地の昆虫相に関する報文などについて発表順にまとめておく。

#### 甲虫目

阿部・笹井(1986)で『*Sciodrepoides* sp. (1); 新種。西川正明氏によって記載される予定。』および『*Sciodrepoides* sp. (2) キョウトコチビシデムシ (*S. tsukamotoi*) に近似。検討中。』とあった、当地で1985年に採集されたチビシデムシ科の小型種は、sp. 1, sp. 2の両種とも *Sciodrepoides pluvialis* カントウコチビシデムシとして新種で記載された(NISHIKAWA, 1992)。また、難倉(1993)は、チビゲンゴロウ・セスジゲンゴロウ・ホソセスジゲンゴロウ・ホンシュウオオイチモンジシマゲンゴロウ・ハイイロゲンゴロウの採集記録(全種、過去に記録あり)を発表している。

#### 双翅目

玉木(1986)が、『おそらく日本未記録種であろう』とした *Dialineura* sp. (氷室美芳氏採集)の♂は、ツルギアブ科の新種 *Dialineura shozii* として記載された。玉木(1986)の中で標本写真付きで紹介されたこの個体は、記載の際に、パラタイプ標本として用いられた(NAGATOMI & LYNEBORG, 1988)。ちなみに、本種のホロタイプは、長野県菅平で1971年に採集された個体。また、南部(1992b)は、北本市石戸宿、他2カ所で採集したツマグロヨコバイの幼虫に寄生しているアタマアブの寄生率などのデータを発表している。

#### 鱗翅目

中川(1991)が、キアゲハ・キチョウ・ツマグロキチョウ・モンキチョウ・ウラギンシジミ・キタテハ・ヒメアカタテハの採集・目撃記録を発表している。また、1992年3月発行の寄せ蛾記63号『ミドリシジミ特集号』では、知見の整理小委員会(巢瀬司・碓井徹)が、会員から寄せられたミドリシジミの採集記録をまとめており、そのなかに北本市石戸宿での採集記録が散見される。短報としては、丸山(1992)は、モンキアゲハの目撃記録を発表しており、中川(1993a)は、ヤマユガを当地から記録した。加えて、中川(1993b)は、モンキアゲハの目撃例も発表している。

市川(1992)は、蛾相の調査が比較的進んでいる埼玉県内7カ所での調査結果から、蛾類による環境評価の試みについて述べているが、その内の1カ所が北本市石戸宿であり、市川(1986)の調査結果が用いられており、牧林(1992b)は、1991年から翌年にわたってライン・センサス法を用いて調査した

当地の蝶に関するデータから、蝶を用いた環境評価に関して論じている。

なお、石塚 (1993) は、1989年4月1日に、コツバメとミヤマセセリの生息を確認する目的で当地を訪れたが、両種とも発見できず、トラフシジミの新鮮個体を採集したことを書きとどめている。

#### 蜻蛉目

野村 (1992) は、北本市から東京都下の木下川橋までの数カ所の荒川河川敷で、トンボ類13種を記録している。この中に、アジアイトトンボ・ギンヤンマ・オオヤマトンボ・シオカラトンボの4種が北本市石戸宿での記録として載っている（この文献では、“北本市石堂宿”という地名になっているが、文脈などから判断して、明らかに“北本市石戸宿”のことである）。また、この報文では、文末に“（以下 次号へ続く）”と書かれているが、1993年7月1日現在まで発行されたこの報文の掲載誌（とんぼと文化、社団法人 とんぼと自然を考える会 発行）には、続報は掲載されていない。

なお、三宮 (1992) および磯野 (1992) は、ダビドサナエを記録した。本県平野部で本種の成虫が採集されたことは特筆すべき事実である。なお、本種は1993年の春にも当地で記録されており、新聞報道もされた（埼玉新聞、1993年5月3日）。

#### 半翅目

南部 (1992b) は、北本市石戸宿、他2カ所でヒメトビウンカとツマグロヨコバイの幼虫を採集して、両種に寄生しているカマバチとアタマアブの寄生率などのデータを発表している。

#### 直翅目

内田 (1992a) は、トゲヒシバツ・ハネナガヒシバツ・ハラヒシバツの、当地での生息を述べている。また内田 (1992b) は、エゾスズを当地から記録している。

#### シリアゲムシ目

牧林 (1992a) は、ヤマトシリアゲの記録を発表している。

#### 膜翅目

南部 (1992a) は、所有標本の中からハバチ科のリストをまとめたが、その中でオオクロハバチ・キコシホソハバチの2種に北本市石戸宿での採集データが見られる。同じく南部 (1992b) は、北本市石戸宿、他2カ所で採集したヒメトビウンカの幼虫に寄生しているクロハラカマバチの寄生率などのデータを発表している。

## 2. 自然学習センター開所、そして自然観察公園の整備も進行中。

前報で書いた通り、1992年7月1日に『埼玉県自然学習センター』がオープンした。行政がこのような環境教育を視野にいれた（と、筆者は信じている）施設を作ったことは大いに評価しているが、『自然を学習するセンターとして、どんな施設にするべきなのか』という根本的な理念がほとんど討議されていないような設備ばかりが目につく。しかし、これも、行政サイドからみれば『とても良くできた施設』なのだろう、確かに『金がかかっている』ことが良くわかるのだから。派手な照明でやたらに目を引く“ネイチャーQ&Aシアター”，フィールドスコープのズラリと並ぶ“大きなガラス張りの観察スペース”，生き物がパソコンで検索できるという“ネイチャーバンク”，誤同定の写真も含まれている電子紙芝居“北本の自然はまねく コーナー”など（そういえば、ダイミョウセセリをホソバセセリ、オオシオカラトンボをシオカラトンボと表示していたのは直っているであろうか）。どれもこれも、『自然を学習するための』設備と言うよりは、『手足を汚さず、スマートに「自然を学習した」気にさせるには、どれくらい見栄えのする設備を用意すれば良いのか』を現物で見せているに過ぎない、と言った方がよさそうな施設だ。部分的には高く評価できる設備もある。入館してすぐに、開架式で自然系の書物が多数並んでいて、入館者が自由に閲覧できる事などはとても良いことだ。自然系の図鑑や雑誌も随分揃っている。『寄せ蛾記』も、今春、この施設をお借りして総会を開いた際に、48号以降を寄贈して



いるので、きっとこの書架に並んでいるものと思う（この3カ月ほど、筆者は同センターを訪れていないので判らないが）。本誌は浦和の県立図書館などにも寄贈しているが、自然環境に興味を持っている人達が多数来館する同センターのような施設で利用されてこそ『寄せ蛾記』だと、筆者は思っている。

同センターの現状をどう思うかは十人十色（少なくとも、昆虫愛好家でこの施設を良く言う人物にはお目にかかったことはない）であろうが、せっかく自然観察公園の地内にある立派な施設なのだから、もう少ししっかりしたコンセプトをもった施設であってほしいと、筆者は思っている。自然を学ぶために、実物以外のメディアを駆使すればするほど、特に電子メディアを導入するほど、それらを用いて説明される“自然”がウソっぽく、薄っぺらいものに見えてきてしまうのは、筆者だけであろうか。

もちろん、一般的には受けは良いようだ。県では、1日平均120人の利用を予想していたようだが、実際には、開所11カ月で利用者は66,000人、1日平均約180人。特に水鳥や野鳥の多い2・3月は約200人、桜の季節の週末は約1,300人も利用があったそうだ（埼玉新聞、1993年6月18日）。

さて、問題が大きいのは、『北本自然観察公園』の方だ。“高尾の池”ができあがり、冬にはカモ類も飛来して、バードウォッチャーにとっては絶好のフィールドになっている。トンボ類も、オオヤマトンボ・ギンヤンマ・コシアキトンボといった、この手の池のご常連たちが、昨夏、できたばかりの“高尾の池”を飛び回っていた。一見、良い雰囲気の水辺だが、周囲の湿地がとても心配だ。池に水を溜めておくために地面を掘り込んでいるのだから、当然、周囲の湿地の水がこの池へ流入するのではなからうか。一応、池の水は周囲にオーバーフローするように作られているようだが、この池と周囲の湿地の今後の状況変化には、注意深い観察が必要であろう。

この問題がもっと大きいのは、学習センター北側にある“ほたるの谷”と名付けられているエリアだ。ここの現状は、あまりにもひどい。同公園の整備事業が始まる前は、ここはとても良い湿地で、サラサヤンマやヒメアカネなども多く見られた場所であったが、“ほたるの谷”を創るために、水路を掘り、湿地保護?のために、ご丁寧に木道まで造った。その結果、どうなったか。湿地は水が水路に流れ込んで干上がり、見事な草地になりつつある。そして、その水路は、現在、水が停滞して澱んでいる。あの水路は、何のために造ったのだろうか。やはり、“金をかけた事業”のためなのだろうか。それとも、例の“ビオトープ構想”絡みの事業なのか。本気で『自然観察すること』を目的としてこのような“自然環境創造”をしたのなら、何と愚かな行為だろうか。誰が、こんなことを計画しているのだろうか。もし、これが“ビオトープ”だ、との認識が県の公園緑地課にあるのだとすれば、巢瀬（1993）が指摘していることとまったく同じ指摘をしなければならない。

さて、このエリアは、本当に“ほたるの谷”にするつもりなのだろうか。現在も、当地にはヘイケボタルが生息している。県南部のほかの生息地に比べて、発生時期が遅いという特徴を持った個体群だ。水温の低い湧水に生息しているのが発生を遅らせている原因だろうか。この“ほたるの谷”では、ホタルをどうするつもりだろう。谷の上部に“蛍の繁殖地”などというエリアも用意されているようだ。もちろん、他の生息地から移入させるような愚かな事は考えてはいないだろうが、ここ数年、行政レベルで流行っている“ホタル”を、せっかく造った自然観察公園なのだから、ここでもぜひ・・・という発想は、あまりに安直過ぎるように思える。大場（1993）の指摘にもあるように、もっと、当地の自然環境を正しく把握し、その重要性をしっかりと認識することが大事なのではないだろうか。

さて、前報では、“採集禁止反対”や“虫屋からみた同公園利用方法の提言”を次回は書くと言ったが、ご覧のとおり、行間隔を狭めてギュウギュウに詰め込んだ今回も、スペースは残り少ない。仕方なく、書きたかったこれらの話は、以下のように次回への予告の形で要点だけを書き留めておく。

#### 1. 同公園での昆虫採集の禁止は、断固反対である。

筆者は、『自然や環境というのは、五感を全部使って実感する』ことではじめて理解できるものと思っている。自然、あるいは自分たちが生活している“環境”を実感するのが環境教育の第1歩ではないのだろうか。そのような意味において、理科教育の現場にいる者としても、『手にとらなくても、注意深く観察すれば自然は理解できる』という発想は、きわめて危険だと思っている。“感じの良い

風景だった”とか, “たくさんの種類の生き物を見た”ということ『良い自然環境だ』と誤解することが一番怖い。これを私は“カタログ趣味的自然観”とでも名付けよう。前項で, 当地で採集された昆虫が2種, 新種であることが半明したことを紹介した。様々な環境に生息し, 様々な行動をする昆虫類を採集し, 標本を作り, そしてそれをじっくり調べるようなことこそ, 現代の子供達にとって大事な自然科学教育ではないのか。良好な自然環境を利用して作られた“北本自然観察公園”で, 子供達が, 『いろんな種類の鳥や虫を見て, 自然がよくわかりました』などという感想を持つことを, 筆者は最も恐れている。何も, 『できる限り採集して持ち帰りましょう』と言っているのではない。

『出来る限り採らないようにしましょう』といった, いい加減な立て看板を立てて, 結局, 子供達に『見て楽しみましょう』的な自然観を植え付けるような事態になることを危惧しているのである。

2. 猛禽類を頂点とする『生態ピラミッド』を前面に立てての自然観は, 子供達には難しすぎる。

猛禽類を頂点とする『生態ピラミッド』は, お話としてはうまくできているが, 子供達に生態系の仕組みを実感させる手段としては適当なものとは言い難い。植物-草食昆虫-肉食昆虫という小さなピラミッドこそ, 子供達が野外でまさに実感できる食物連鎖の例として最適であろう。

3. 湿地や池に『入るな』ではなくて, 『気をつけて入りましょう』ではないのか?

木道や遊歩道を, こざっぱりした格好でスマートに歩いて『良い自然ですねエ・・・』というシーンは, “北本自然観察公園”のあるべき姿ではないと筆者は思っている。ここは正に, 湿地のジュークジューク, 草藪のチクチクを体験することができる, 真の意味で“自然を観察する事を経験できる”公園になるべきではないのか。“カタログ趣味的自然観”を育てる場所ではないはずだ。

4. 同公園の中央を流れるU字溝の水路は, 湿地探索路として大いに利用すべきだ。

まだまだ書きたいことは山ほどあるが, 紙面も尽きた。続きは次回。

#### 引用・参考文献

- 石塚 祺法, 1993. 武蔵野の雑木林の衰退と蝶の変遷 (4). 寄せ蛾記, (66):1413-1423.  
 市川 和夫, 1986. 北本市石戸宿の蛾類. 寄せ蛾記, (48):724-739.  
 市川 和夫, 1992. 埼玉県 of 蛾相について. 昆虫と自然, 27(2):8-12.  
 磯野 治司, 1992. 北本市におけるダビドサナエの採集記録. 寄せ蛾記, (64):1342.  
 碓井 徹, 1991. 石戸宿, その後 (1). 寄せ蛾記, (62):1189-1204.  
 碓井 徹, 1992. 石戸宿, その後 (2). 寄せ蛾記, (64):1355-1362.  
 内田 正吉, 1992a. 埼玉県におけるヒシバツカ類. 昆虫と自然, 27(2):21-25.  
 内田 正吉, 1992b. 埼玉県におけるエゾスズの分布. 寄せ蛾記, (65):1398.  
 大場 信義, 1993. ホタルが生息するような人里の保全・再生. 自然保護と昆虫研究者の役割 IV (日本昆虫学会第53回大会・第37回日本応用動物昆虫学会大会合同大会 小集会 講演・寄稿論文集), 44-49.  
 三宮 幸雄, 1992. 北本市でダビドサナエを採集. 寄せ蛾記, (64):1342.  
 知見の整理小委員会(巢瀬司・碓井徹), 1992. 県内のミドリシジミの記録. 寄せ蛾記, (63):1307-1308.  
 巢瀬 司, 1993. 嵐山のビオトープはビオトープか?. 寄せ蛾記, (67):1476-1477.  
 玉木 長寿, 1986. 北本市石戸宿の双し類. 寄せ蛾記, (48):714-717.  
 中川 利勝, 1991. 埼玉県産蝶類記録 (2). 寄せ蛾記, (62):1205-1208.  
 中川 利勝, 1993a. 北本市石戸宿での未確認種, ヤママユガの採集記録. 寄せ蛾記, (66):1449.  
 中川 利勝, 1993b. 北本市石戸宿でモンキアゲハを目撃. 寄せ蛾記, (67):1484.  
 NAGATOMI, A. & LYNEBORG, L., 1988. The Japanese *Dialineura* (Diptera, Therevidae). *Kontyû*, 56(4):825-838.  
 南部 敏明, 1992a. 私の標本箱の広腰亜目 (1)ハバチ科 Tenthredinidae. 埼玉動物研通信, (10):1-14.  
 南部 敏明, 1992b. カマバチ・アタマアブの記録. 埼玉動物研通信, (10):15-18.  
 NISHIKAWA, M. 1992. New Lowland *Sciodrepoides* (Coleoptera, Cholevidae) from the Kwantô Plains, Central Japan. *Elytra*, 20(2):197-201.  
 野村 圭祐, 1992. 荒川河川敷のトンボ. とんぼと文化, (40):7-10.  
 鎌倉 正人, 1993. 北本市で得られたゲンゴロウ類6種とその生息環境について. 寄せ蛾記, (66):1443-1444.  
 牧林 功, 1992a. 埼玉県のシリアゲムシ. 昆虫と自然, 27(2):26-30.  
 牧林 功, 1992b. 蝶による環境評価のいという -特に埼玉県を舞台にして-. 昆虫と自然, 27(8):22-26.  
 丸山 裕史, 1992. 北本市におけるモンキアゲハの目撃例. 寄せ蛾記, (65):1408.

.....

## 浦和州市街地におけるミドリヒョウモンの目撃記録

長田 志朗

.....

本会報No. 66において石塚祺法氏が、また同No. 67において中川利勝氏が浦和市内におけるミドリヒョウモンの記録を報告されているが、筆者も浦和州市街地における本種の目撃記録を得ているので報告します。

浦和市仲町4丁目に位置する自宅庭には、数本の*Buddleja davidii* Franh. (ブuddleア, フジウツギ)があり、初夏から晩秋に及ぶその花期には多数の蝶が訪れる。

一昨年(1991年)にミドリヒョウモンを見かけていたので、昨年はつとめて記録を残すように心掛けた。1992年における記録は以下のとおり。

### ミドリヒョウモン

1 ♀	目撃	12. IX.	1992	1:00 p. m.
1 ♂	"	"	"	2:00 p. m.
1 ♀	"	19. IX.	1992	
2 ♂	"	20. IX.	1992	

筆者が在宅していて好天の日には、以上のような記録が得られたので、この間の晴れた日には連日本種が訪花していたと推測される。

なお、浦和市内においては、市街地の拡大に伴い、アカタテハ・ルリタテハなどの個体数が減少したとされているが、両種の訪花記録もあるので付記する。

### アカタテハ

2 ex.	目撃	18. VIII.	1992
2 ex.	"	19. VIII.	1992
1 ex.	"	10. X.	1992

### ルリタテハ

1 ex.	目撃	22. VIII.	1992
1 ex.	"	19. IX.	1992
1 ex.	"	3. X.	1992

以上の記録は、週末に限って、しかも筆者が休日出勤しなかった日に限って得られたもので、実際にははるかに頻回にわたって訪花していたものと考えられる。

寄 せ 蛾 記 68号 目 次

井上 寛：いるま蛾報（8）	1485
記野直人・長谷川洋：北本市石戸宿で採集した甲虫類（1）	1487
内田 正吉：埼玉県寄居町におけるケシマグソコガネ類の採集記録	1491
野村周平・南部敏明：ツルグレン装置により取り出した小型甲虫類	1492
川 辺 湛：入間市仏子（加治丘陵）の小蛾類	1497
荒 木 崇：詩にあらわれた蝶（5）	1503
中村 英夫：蝶標本の針抜き方法決定版？	1508
碓 井 徹：石戸宿，その後（3）	1509
長田 志朗：浦和市市街地におけるミドリヒョウモンの目撃記録	1513
：会報	1514
：編集後記	1514
：会員名簿の訂正と追加（付録，ページ数なし）	

（埼玉昆虫談話会，1993年7月4日 発行）